

注（引用文献）・参考文献の記載フォームについて

注（引用文献）・参考文献は、下記のフォームによって記載すること。

注（引用文献）の記載

単行本の記載項目⇒編著者名『書名』（版），発行所，発行年，ページ

- 記載例⇒注
- 1) 松端克文『地域の見方を変えると福祉実践が変わる—コミュニティ変革の処方箋』，ミネルヴァ書房，2018年，19～20ページ。
 - 2) 地域包括支援センター運営マニュアル検討委員会編『地域包括支援センター運営マニュアル 2訂-さらなる地域包括ケアの推進と地域共生社会の実現に向けて-』，一般社団法人長寿社会開発センター，2018年，57ページ。
 - 3) 前掲2) ， 58～60ページ。

訳本の記載項目⇒原著者名，原書名，原書発行所，原書発行年，訳者名『訳書名』，訳書発行所，訳書発行年，ページ。

- 記載例⇒
- 4) Rossi, Lipsey, Freeman, Evaluation: A Systematic Approach 7th edition , Sage, 2004. 大島巖・平岡公一・森俊夫・元永卓郎監訳『プログラム評価の理論と方法—システムティックな対人サービス・政策評価の実践ガイド—』。（第2版），日本評論社，2008年，77ページ。

雑誌の記載項目⇒執筆者名「論文のタイトル」『雑誌名』巻（号），発行所名，発行年，ページ。

- 記載例⇒
- 5) 佐藤哲郎「社協ワーカーによる地域福祉援助プロセスの実践モデルの構築—グラウンデッド・セオリー・アプローチによる分析」『社会福祉士』第22号，日本社会福祉士会，2015年，4～12ページ。
 - 6) Dominelli, L. “Decolonising disaster social work: environmental justice and community participation” , International social work , 47 (3), 2015, pp. 659-672.

欧文雑誌掲載の論文名は“ ”で囲むこと。

欧文の書籍・雑誌の題名は、イタリック書体にするので、該当字句にアンダーラインを引くこと。

電子メディア情報の記載項目⇒著者名（公表年または最新の更新年）「当該情報のタイトル」（URL，アクセス年月日）

- 記載例⇒
- 7) Charles Ragin. 「fuzzy set / Qualitative Comparative Analysis. Software」
(<http://www.socsci.uci.edu/~cragin/fsQCA/software.shtml> , 2018. 9. 21)

注の文中で参考文献を記述する場合

- 単行本の例⇒
- 8) 重度身体障害者への障害福祉サービス提供システムが模索されてきた実態は安積純子・岡原正行・尾中文哉・立岩真也『生の技法—家と施設を出て暮らす障害者の社会学』（生活書院，2017）に詳しい。
- 雑誌の例⇒
- 9) 質的比較分析については、森大輔「判例研究への質的比較分析（QCA）の応用可能性：米国の弁護士依頼権に関する判例の分析を例に」（『熊本法学』136，2016年，218～262ページ。）

参考文献の記載

本文中に注番号のない参考文献の記載は、上記の注に準じる。

記載例⇒ 参考文献

- ・上野谷加代子監修『災害ソーシャルワーク入門』，中央法規，2013年，30～33ページ。
- ・小原眞知子・高瀬幸子・高山恵理子・山口麻衣『ソーシャルワーカーによる退院における実践の自己評価』，相川書房，2017年。

●例示の注の文献は一部，（公社）日本社会福祉士会編『社会福祉士』第26号（2019年），第27号（2020年）から引用